

第5章 史料

第1節 棟札・墨書ほか発見物

松城家に残された文書以外の史料のうち、建築に関する

年代や人名を示すものは非常に少なく、主屋附指定となっている棟札のほか、地鎮祭の祈祷札、漆喰彫刻、主屋入口脇の天水桶程度しかない。工事中に発見した墨書のうち人名あるいは現寸図、その他遺物のうち主なものを加え、以下に掲載する。



(表面)

岡象女神  
奉上棟大元尊神家門長久守護所  
工匠上田儀兵エ吉久敬白  
五帝龍神  
當主松城兵作藤原忠欽言



(裏面)

明治六年六月廿六日  
癸酉 卯 吉祥

写真5-1-1 主屋棟札 1枚 (主屋附指定) 明治6年 桧 (383×138×18)



(表面)

奉瑜伽大権現御本地供所求成拝祈  
明治五年  
四月大吉辰  
蓮臺寺



(裏面)

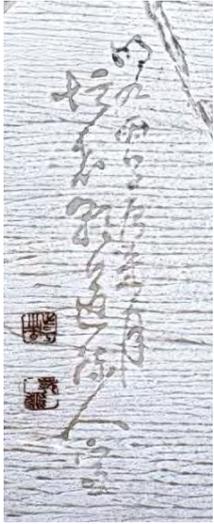
写真5-1-2 地鎮祭祈祷札 1枚  
明治5年 桧 (383×138×18)

※梵字は省略



金刀比羅宮  
明治八年  
二月三日  
十日 吉 日  
祈禱海上安全守護攸

写真5-1-3 商売祈祷札 1枚  
明治8年 桧 (979×181×23)  
東土蔵北面下屋地中遺物



明九  
者乾  
道鴈  
■人  
写来  
月



明季  
治初  
六雪  
寫香  
峰表

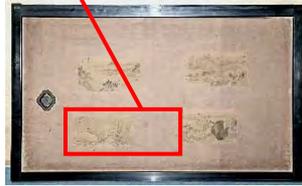


写真5-1-5 主屋2階前の間天袋

写真5-1-4 漆喰彫刻「雨中の虎」年紀  
明治9年 主屋2階南廊下壁（部分拡大）



弘化三年丙午  
十一月吉日  
鑄物師  
江戸深川  
釜屋七右衛門

写真5-1-6 主屋南側天水桶

弘化3年 鉄製（上面外径910×成736）



写真5-1-7 床板に描かれた庭塀（アーチ部分）現寸

当初 主屋2階南西八畳間

※他室の畳下床板にも2階ガラス欄間や子持ち式太鼓張襖柱の現寸図が確認できる。



大工 忠七（天地逆）

写真5-1-8 木材仕口に書かれた名前

当初 主屋下屋側桁北西捻組

※組み上げる向きを念頭に入れず書いたか。



二階前所  
西ノ

作奉

写真5-1-9 主屋2階手縫い床頭板の墨書

当初か



写真5-1-10 主屋バルコニー飾り格子

大正改造 鉄製（250×620×厚9）

北土蔵内保管遺物

※緑色のペンキ痕がある。



写真5-1-11 鉄砲風呂

戦後（860×715×成740）

北土蔵内保管遺物

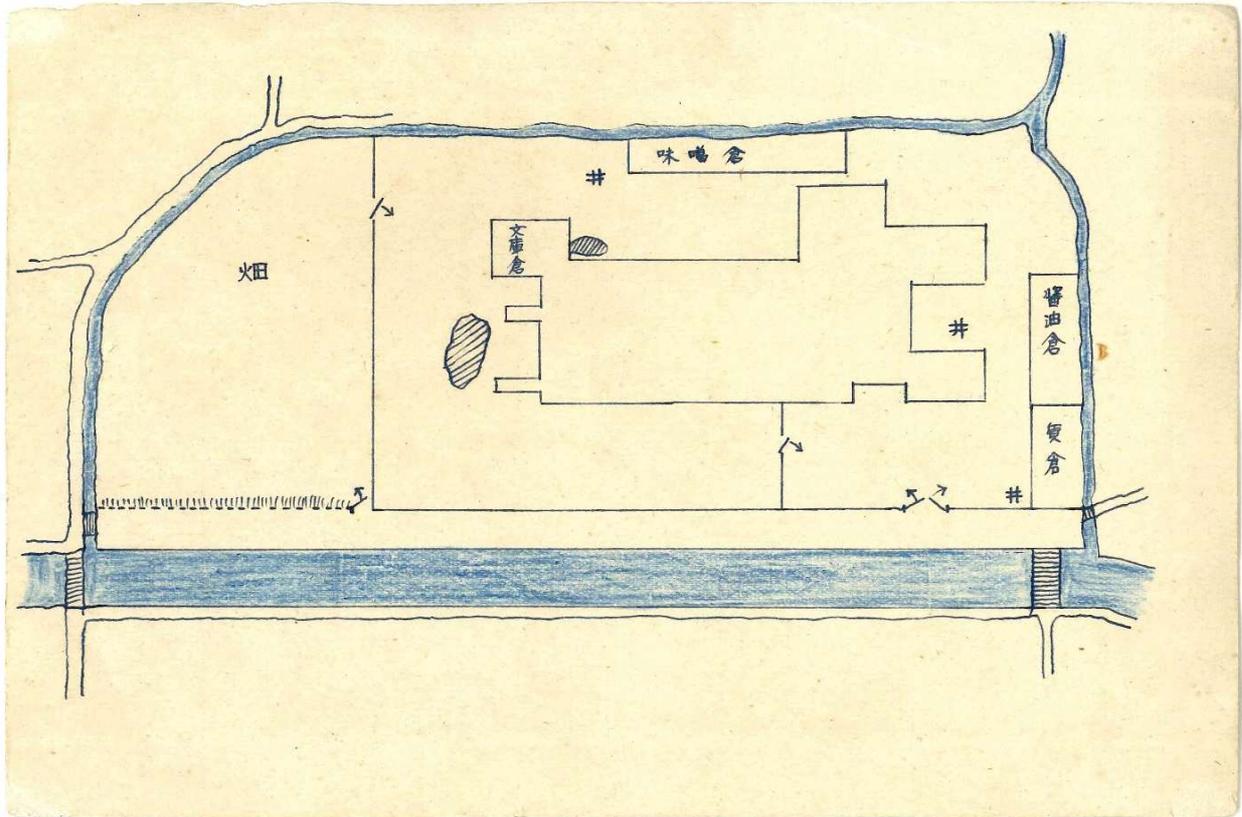
※釜屋改造で使用。



写真5-1-12 主屋2階畳小口の墨書

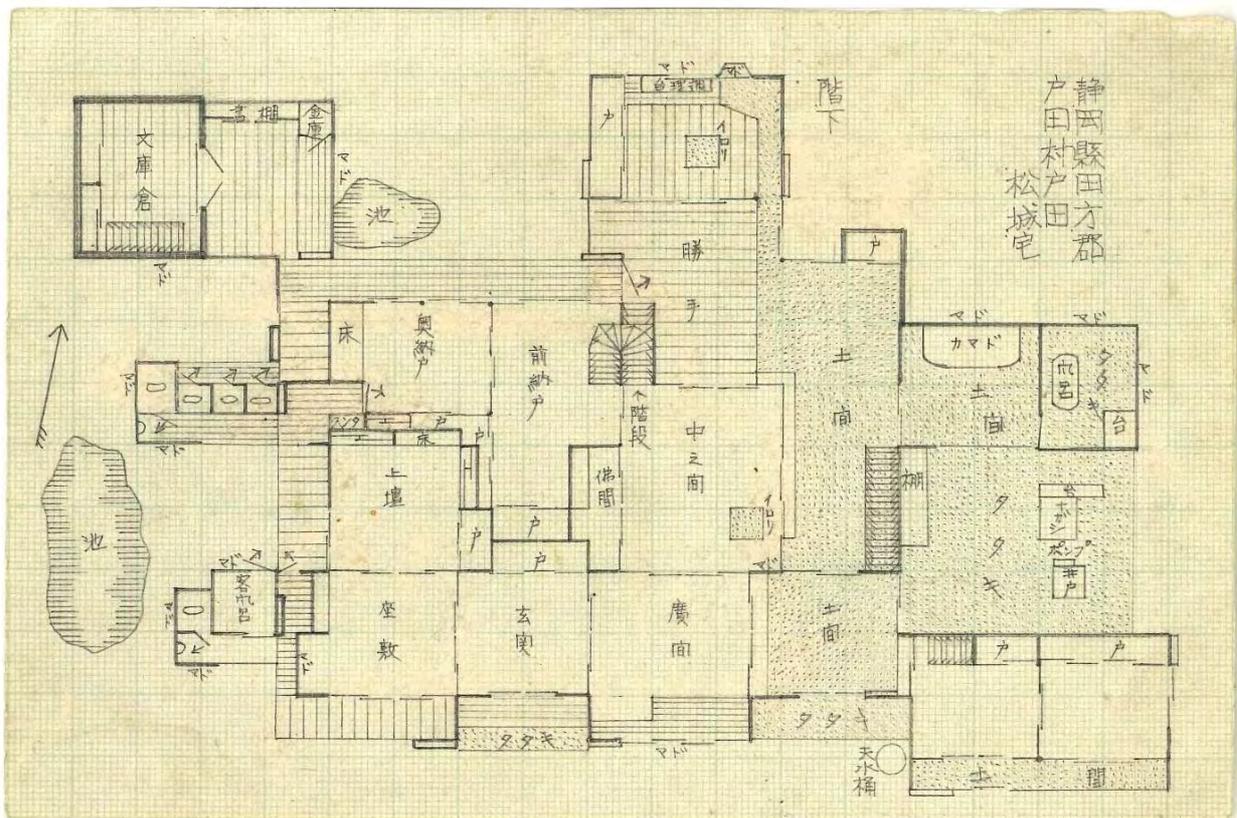
前の間、昭和41年か

第2節 図面資料



図版5-2-1 昭和戦頃配置図

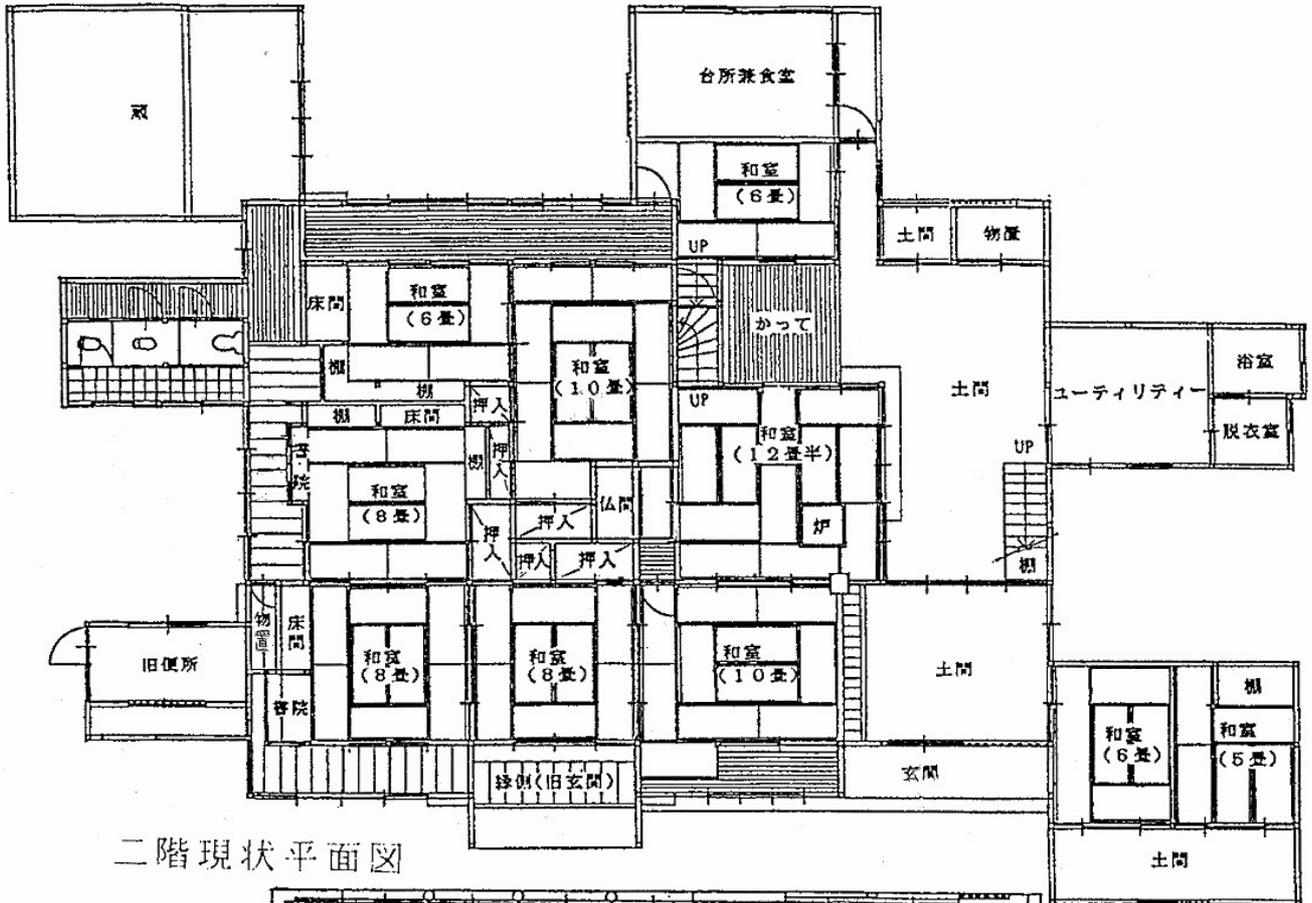
松城素男、昭和10年台（疎開中）（190×130）



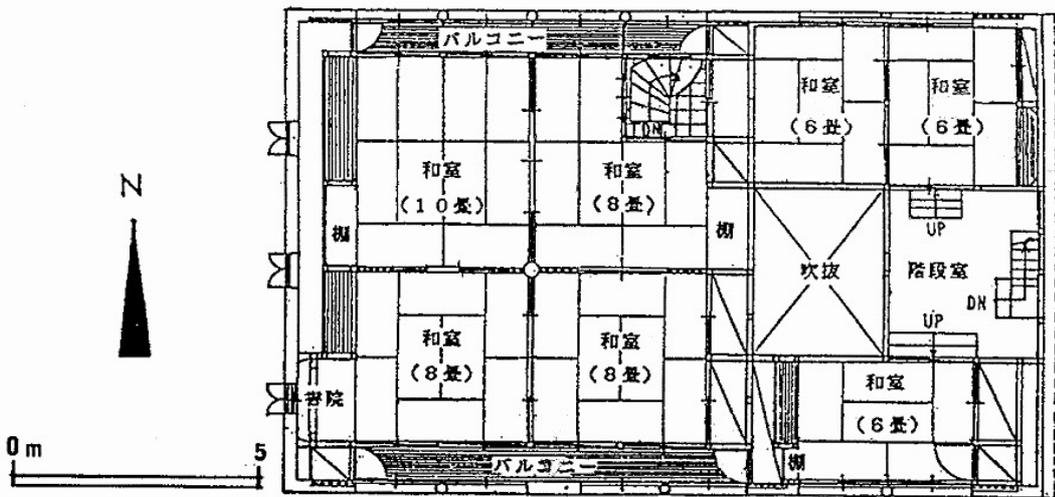
図版5-2-2 昭和戦頃主屋・付属棟平面図

松城素男、昭和10年台（疎開中）（190×130）

一階現状平面図

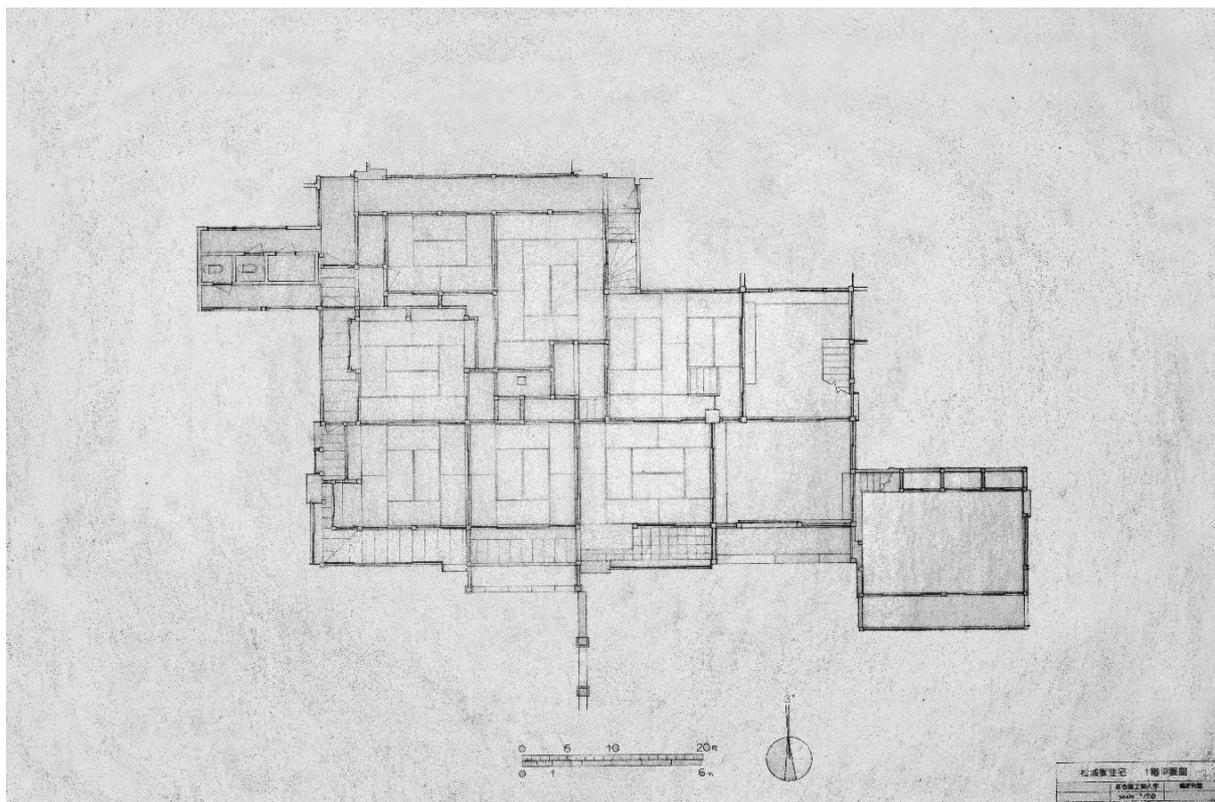


二階現状平面図



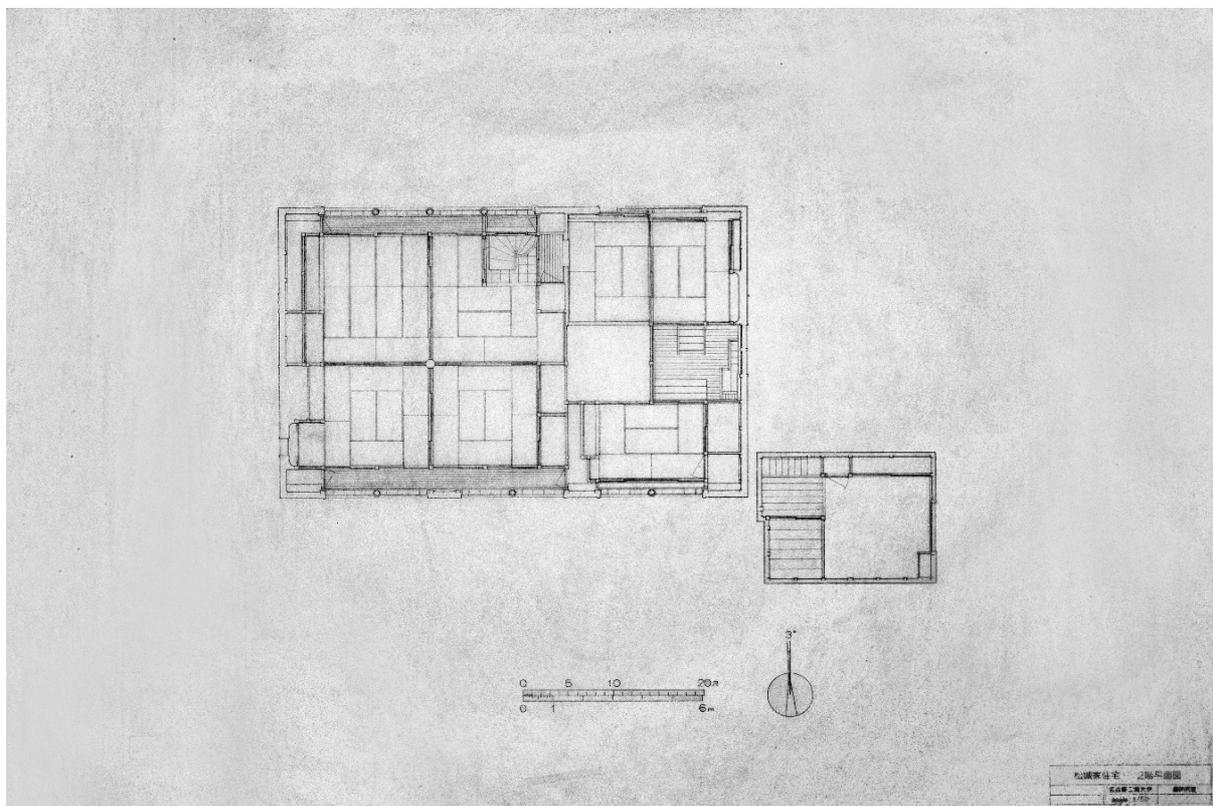
図版5-2-3 松城家主屋・付属棟平面図

齋藤金次郎（早稲田大学理工学術院総合研究所嘱託研究員）、昭和59年（名城大学在籍時）



図版5-2-4 松城家住宅 1階平面図

名古屋工業大学 麓研究室、平成20年（提供 名古屋工業大学名誉教授 麓 和善）



図版5-2-5 松城家住宅 2階平面図

名古屋工業大学 麓研究室、平成20年（提供 名古屋工業大学名誉教授 麓 和善）

## 第3節 古写真

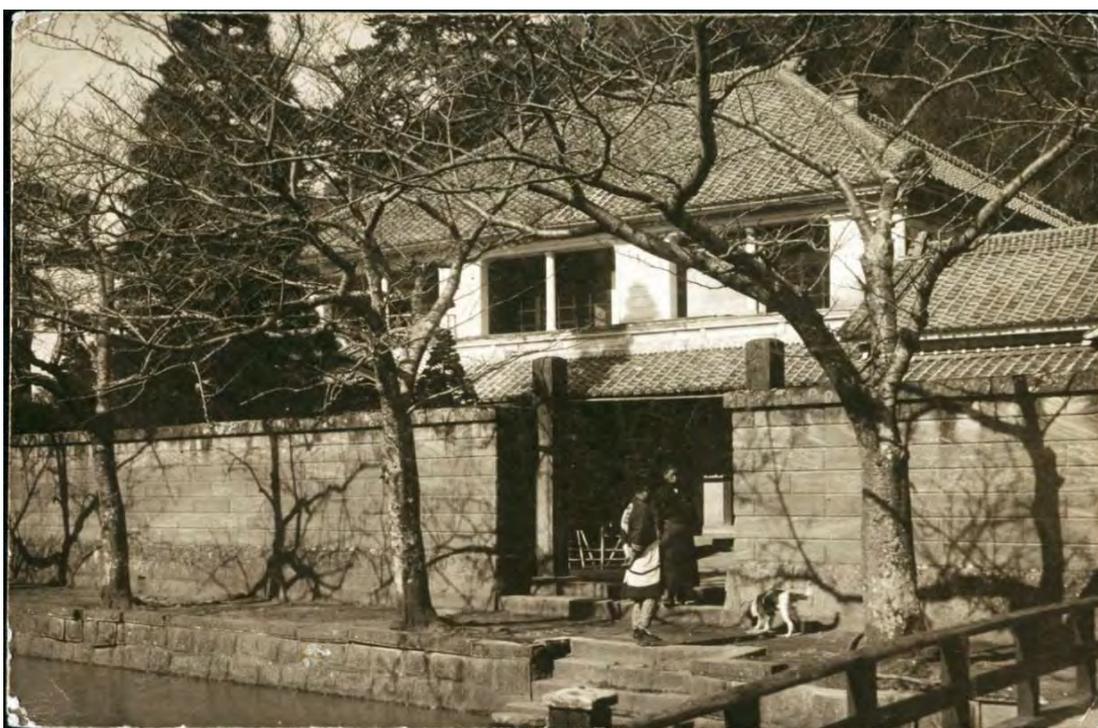
以下に主だったものを古い順に掲載する。古写真9、12～19、50～62は本事業着手後に松城みどり氏より提供を受けたものであり、古写真23～49は齋藤金次郎氏（早稲田大学理工学術院総合研究所嘱託研究員）より提供を受けたものである。それ以外は松

建物の所有者が変更となった際に、松城氏から沼津市へ移譲されたものである。写真データのみで、原版の所在が不明なものも一部含まれる。



古写真1 全景（南西より見る） 明治時代

主屋2階南面全体に細い縦格子のバルコニーが確認できる。撤去前の西土蔵が写る唯一の写真。

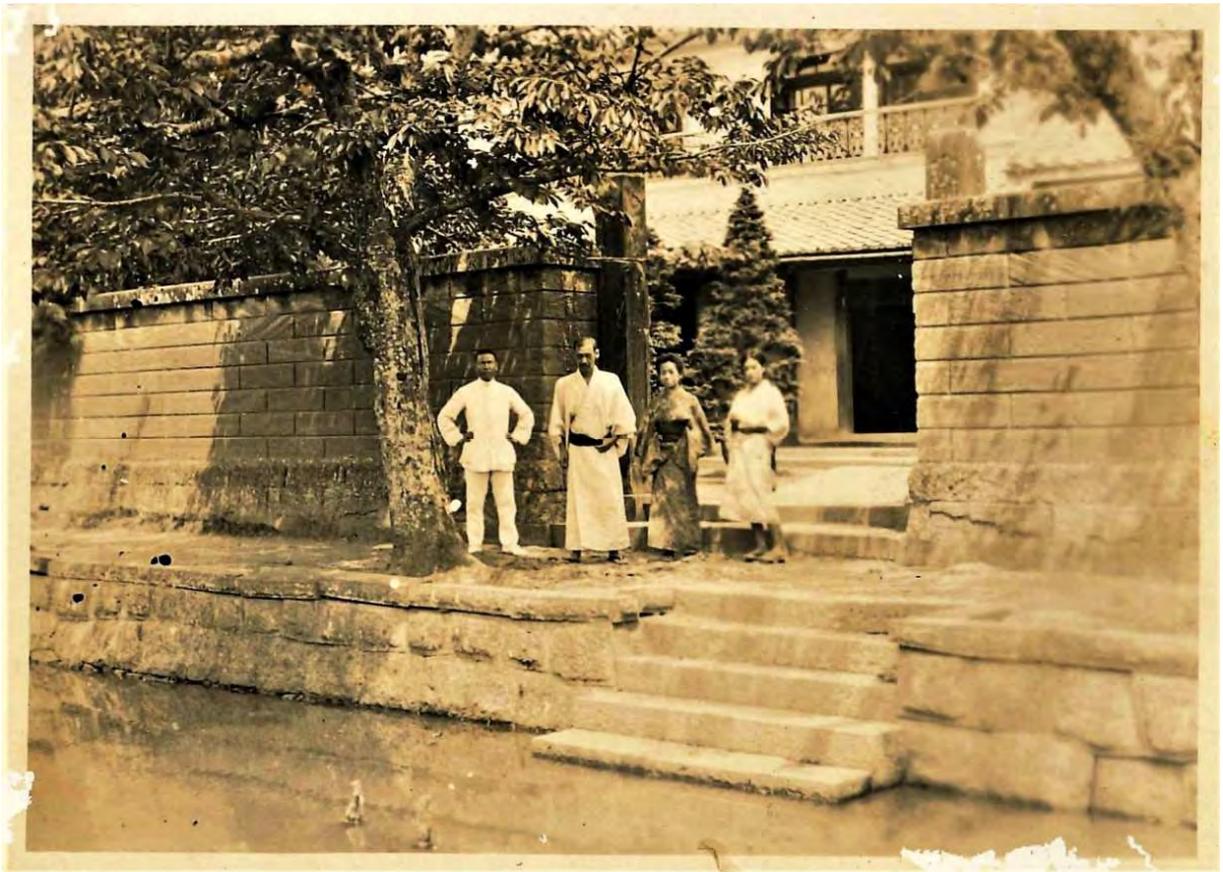


古写真2 正面（南東より見る） 明治末～大正頃

主屋2階南面バルコニーは縦格子の規模が西半のみに縮小されるが、床は残っている。大屋根東面の煙突が鮮明に写る。



古写真3 正面（南東より見る） 明治末～大正12年以前  
東土蔵東面上段には改造される前の漆喰壁が残っている。



古写真4 正面（南東より見る） 大正12年

主屋バルコニーは鉄製飾り格子に変えられ、2階南面全体にある。  
写真裏面にメモがあり、大正12年8月のものであることが分かる。  
また人物左より、「新聞の人」、「父」、「母」、「田鶴子」ともあり、呼称の様子から松城みどり氏の母「保」が裏書きしていることが分かる。  
※「父」は「長」（三代兵作）のこと、年号が正確なら49歳



古写真5 正面（南東より見る） 大正～戦前

東土蔵東面上段は海鼠壁に改造されている。正面門に旧開戸が見える。



古写真6 東土蔵 正面（北西より見る） 戦後

東土蔵西面庇は現状の素木造のものになっている。  
正面門はまだ引戸構えへの改造なし。



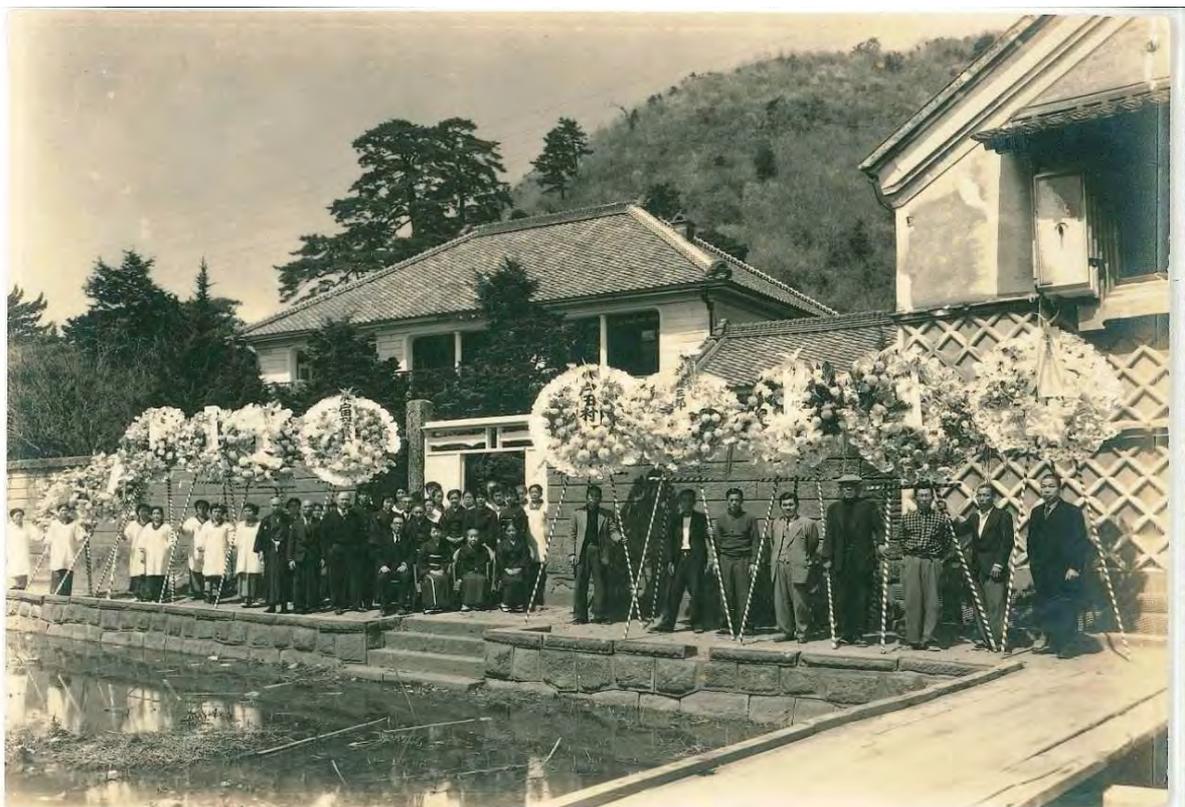
古写真7 主屋遠景（南東より見る） 昭和30年代

主屋2階石積風漆喰塗大壁の南端・北端には補修が入っている。  
周囲には茅葺の民家が多数みられる。



古写真8 正面（南東より見る） 昭和32前後～39年

主屋バルコニー鉄製飾り格子規模縮小、西半のみとなっている。  
正面門は引戸構えに改造されている。



古写真9 正面（南東より見る） 昭和32年

東土蔵の桶受け金具がまだ残っている。



古写真10 宅地遠景（東より見る） 昭和30年代

西土蔵・醤油蔵は既になく、北土蔵東面が板張りになっている。  
釜屋・台所の古い状態を示す唯一の写真。



古写真11 正面  
(南東より見る)  
昭和32年以降

主屋バルコニー鉄製飾り格子が全部撤去されている。



古写真12 庭塀 東面  
(東より見る)  
昭和39年

庭門アーチに旧開戸が写っている。



古写真13 正面  
(南東より見る)  
昭和39年



古写真14 主屋ヒロマ南、庭塀  
(東より見る)  
昭和39年

ヒロマ南縁に5枚引違のガラス  
入格子窓が確認できる。



古写真15 主屋2階南西八畳間  
(東より見る)  
昭和40年

畳は縁付きのものが敷かれて  
いるように見えるが、上敷き  
か。



古写真16 主屋 正面  
(南東より見る)  
昭和40年

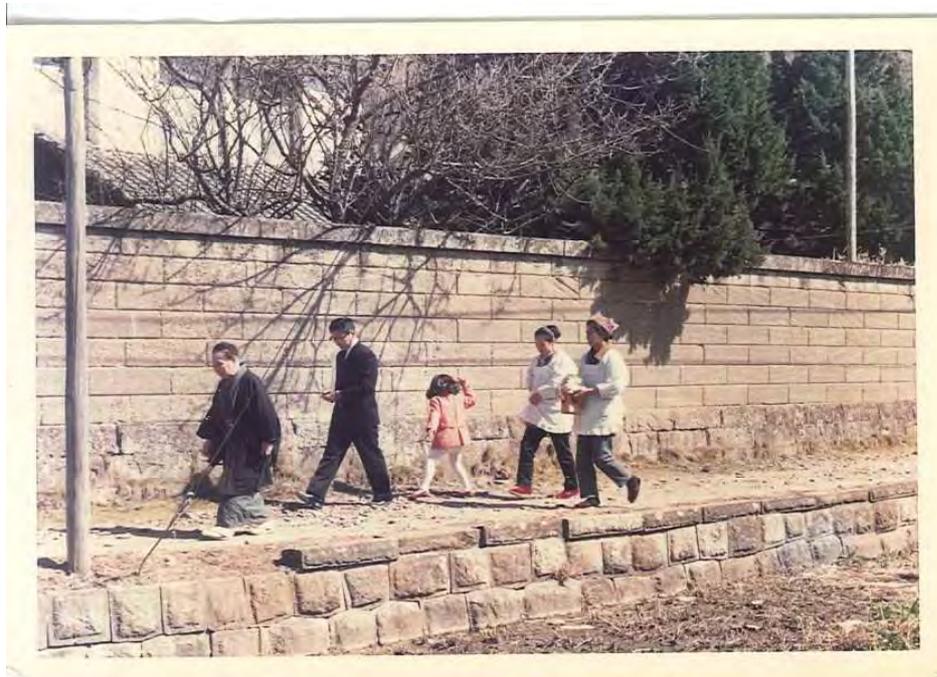


古写真17 庭塀

(南東より見る)

昭和45年

庭門アーチ開戸が現状の縦板張りのものになっている。



古写真18 南石塀

(南西より見る)

昭和46年



古写真19 南石塀・東土蔵

(南より見る)

昭和47年

宅地前の河と歩道が埋め立てられる前が分かる最後の写真。門の基礎石は成が高く、踏込の敷石があったことが分かる。



古写真20 文庫蔵 便所 風呂  
(南より見る)  
昭和40年代



古写真21 主屋 文庫蔵  
便所 風呂  
(南西より見る)  
昭和中頃



古写真22 主屋 文庫蔵  
便所 風呂  
(南西より見る)  
昭和後期

便所南面開放部分にガラス窓が入り、腰下をサイディングに変更されている。



古写真23 便所

(南東より見る)

昭和59年

この状態で修理前に至っていた。



古写真24 風呂

(南より見る)

昭和59年

南面西より第一間は、真壁砂漆喰変り塗縹波調仕上に松葉形剝抜窓があり、腰下は板壁名栗仕上・竹押えとしていたことが分かる。



古写真25 主屋 便所 風呂

(西より見る)

昭和59年

主屋2階南端の鏝窓は両開きの建具であったことが分かる。



古写真26 主屋 便所 風呂

(北西より見る)

昭和59年

旧風呂の北面の情報がある程度分かる。



古写真27 主屋 文庫蔵

便所 風呂

(南西より見る)

昭和59年



古写真28 正面

(南より見る)

昭和59年



古写真29 主屋（南より見る）昭和59年



古写真30 主屋（南東より見る）昭和59年  
ミセの旧海老形鮫鱈が写っている。



古写真31 主屋（南東より見る）昭和59年



古写真32 主屋（南東より見る）昭和59年  
2階雨戸鉄板張りの旧仕様が分かる。



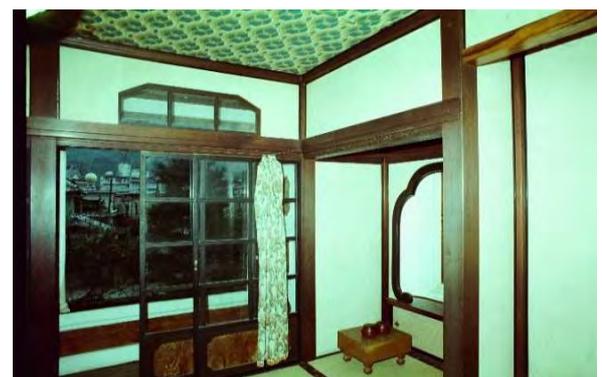
古写真33 主屋2階 北西十畳間 前の間  
（北西より見る）昭和59年



古写真34 主屋2階 北西十畳間  
（南東より見る）昭和59年



古写真35 主屋2階 前の間  
（南方応接間を見る）昭和59年



古写真36 主屋2階 南西八畳間  
（北東より見る）昭和59年



古写真37 主屋 南西八畳間  
(東より見る) 昭和59年



古写真38 主屋 2階南廊下  
(西より見る) 昭和59年



古写真39 主屋 南西八畳間 (南より見る) 昭和59年



古写真40 主屋 廻階段 (2階部分南より見る) 昭和59年  
上り口がフローリングに換えられている。



古写真41 主屋 庭塀 (南東より見る) 昭和59年



古写真42 主屋 (北より見る) 昭和59年



古写真43 ミセ (東より見る) 昭和59年  
下見板の旧状が分かる。但し中古か。



古写真44 文庫蔵 (北東より見る) 昭和59年  
北壁面水切りの旧状が分かる。



古写真45 東土蔵 (南西より見る) 昭和59年



古写真46 文庫蔵 北土蔵 (西より見る) 昭和59年



古写真47 北土蔵 (南より見る) 昭和59年



古写真48 主屋 式台妻壁 (南より見る) 昭和59年  
式台が建て替えられる直前は妻壁が板壁であった。



古写真49 主屋 式台彫刻  
(南より見る) 昭和59年  
まだ当初の彫刻が取り付いている。



古写真50 主屋 カッテ  
(東より見る) 平成4年



古写真51 王屋 カッテ  
(東より見る) 平成4年



古写真52 主屋 (カッテより東を見る) 平成4年  
主屋北東隅外壁が海鼠壁であったことが分かる。



古写真53 主屋 北出入口  
(北西より見る) 平成4年



古写真54 主屋 北出入口  
同左 平成4年



古写真55 主屋 台所（南より見る）平成4年



古写真56 主屋 台所（北より見る）平成4年



古写真57 主屋 台所（北西より見る）平成4年



古写真58 主屋 式台（南東より見る）平成4年

式台を全部建て替えている状況。



古写真59 主屋 式台 取替部材 平成4年



古写真60 西側面（西より見る）平成4年

風呂が撤去されている。



古写真61 西側面（西より見る）平成4年



古写真62 正面（南東より見る）平成4年

第4節 文書

現在把握・保管されている松城家文書としては、商売上の記録や、日記・見聞録などが多くを占め、松城

建築に関する記述は少ない。

主だった文書史料の中から、さらに部分的に抜粋したものを以下に示す。

①『日記出入請帳』

明治6年11月～11年12月の金銭出入帳簿。松城家普請関係賃金の支払いなどが記録されているが、戸田の工事関係以外にも松城兵作が出納していた物件が含まれている。松城家住宅の棟梁であった「大工 儀兵衛」の名や、平重など、あるいは左官職人の名などとともに賃金書き込まれている。



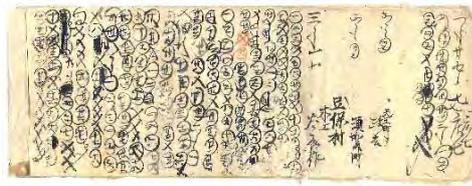
(裏表紙)



(表表紙)

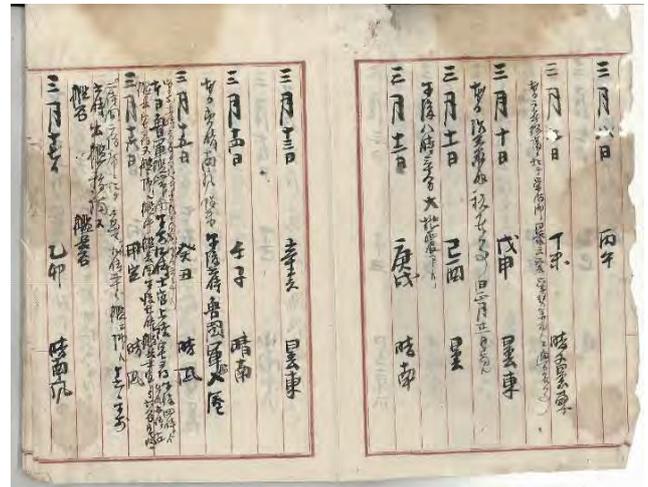
②明治八年 職人出面表

大工や左官職人の出面が示されており、時期的に戸田の松城家に関するものが主と考えられる。



③明治一五年 松城兵作日記 (熊三郎日記)

今回の調査では「三月廿三日 辛酉 晴風 本日濱蔵東分建築ス」は、文庫蔵銅板葺下屋の増築を示すものと判断した。その他、3月14～16日にロシア官軍が訪れた記述も確認できる。



## 重要文化財 松城家住宅主屋ほか6棟 保存修理記録

1	建造物名称	松城家住宅 主屋・ミセ・文庫蔵・東土蔵・北土蔵・門及び塀
2	分類	重要文化財
3	指定年月日	平成18年7月5日
4	所在地	静岡県沼津市戸田72番地
5	所有者	沼津市
6	建築種別(用途)	住宅・土蔵・門・塀
7	建築年代	主屋：明治6年(1873)(上棟) ミセ・文庫蔵・東土蔵・北土蔵・門及び塀：主屋と同時期
8	材質及び構造	主屋・ミセ：木造、2階建 文庫蔵・東土蔵・北土蔵：土蔵造、2階建 門及び塀：石造
9	屋根形式および葺材	主屋 主体部：寄棟造、棧瓦葺、四周下屋付、南面式台突出、切妻造、棧瓦葺、北面カッテ突出(指定範囲外)、切妻造、棧瓦葺 釜屋：切妻造、棧瓦葺、越屋根付 風呂・便所：切妻造、棧瓦葺 ミセ：切妻造、棧瓦葺、南面下屋付 文庫蔵：切妻造、棧瓦葺、東面下屋(蔵前)付、さらに東に銅板葺下屋付 東土蔵：切妻造、棧瓦葺、北面下屋付 北土蔵：切妻造、棧瓦葺
10	寸法 (平面積/桁行/ 梁間/棟高)	主屋 主体部：242.038㎡/17.831m/13.574m/10.614m 式台：3.332㎡/0.909m/3.666m/4.290m 釜屋：17.518㎡/5.454m/3.212m/4.123m 便所：11.466㎡/3.984m/2.878m/3.734m 風呂：8.779㎡/3.242m/2.708m/3.692m(復原整備、指定範囲外) カッテ：8.062㎡/1.454m/5.545m/4.685m(北突出部、指定範囲外) ミセ：31.222㎡/5.777m/5.509m/5.375m 文庫蔵：29.322㎡/4.545m/6.593m/6.986m 東土蔵：47.934㎡/8.761m/5.054m/6.884m 北土蔵：32.233㎡/9.090m/3.546m/5.993m 門及び塀 門柱：2.724m(高さ) 外塀：南塀東半5.760m、南塀西半30.700m、西塀21.030m、北塀10.750m 庭塀：8.000m 東塀(復原整備、指定範囲外)：6.620m
11	事業概要 修理種別 工期 経費	主屋・文庫蔵・東土蔵：半解体修理 ミセ・北土蔵・門及び塀：解体修理 平成28年12月～令和4年9月(70か月) 1,007,290,750円
12	書名 発行年月日 著者、編集者  発行者(出版者)	重要文化財松城家住宅主屋ほか6棟保存修理工事報告書 令和4年12月31日 稲葉敦、西澤正浩、鹿取奈央(公益財団法人文化財建造物保存技術協会) 木村聡(沼津市教育委員会) 斎藤金次郎(早稲田大学理工学術院総合研究所嘱託研究員) 長谷川俊介(文化財量保存会) 沼津市
13	修理歴	主屋 主体部：大正～戦前、戦後～昭和後期、平成4～7年、平成12年、平成14～16年、平成22～23年 釜屋：大正～戦前、戦後～昭和後期、昭和末～平成中頃 カッテ・台所：平成4年(造り替え) 便所：昭和50年頃、平成14年頃 風呂：平成4年(撤去) ミセ：大正～戦前、戦後～昭和後期、平成14～15年 文庫蔵：明治15年頃、明治後期～末、昭和50年頃、平成15年、平成20年 東土蔵：明治後～末、大正～戦前、戦後～昭和後期、平成14～15年、平成22年 北土蔵：大正～戦前、戦後～昭和後期、平成17年 門及び塀：戦後～昭和後期、平成11年、平成14年
14	備考	今回の修理に伴う調査の結果、各建物は現状変更を行って、当初の形式に復旧整備した。 また、併せて構造補強を実施した。

**Documentation on Preservation and Restoration Work at the Main House and Six other Buildings of the Matsushiro Family Residence, Important Cultural Property Designated by the Japanese Government**

1	Name of buildings	Matsushiro Family Residence
2	Classification	OMOYA (main house), MISE (accountant's house), BUNKOGURA (storehouse of assets), HIGASHIDOZŌ (east storehouse), KITADOZŌ (north storehouse), MON (gate), and HEI (fence)
3	Date of designation	Important Cultural Property designated by the Japanese Government July 5th, 2006
4	Location	72 Heda, Numazu City, Shizuoka Prefecture
5	Owner	Numazu City
6	Type of buildings (uses)	Housing, storehouse, gate, and fence
7	Date of buildings	Omoya : 1873 (ridgepole-raising; completion of the framework) Mise, Bunkogura, Higashidozō, Kitadozō, Mon, and Hei : about the same period as the Omoya
8	Material and structure	Omoya and Mise : Timber frame, two - story Bunkogura, Higashidozō, and Kitadozō : Plastered earthen walls, two - story Mon and Hei : Stone-built
9	Roof style and material	Omoya: Main part: Hipped pantile roof, lean-to roof attached on all sides, protruding Shikidai on the south: Gabled pantile roof, and protruding Katte on the north (outside the designated range of Important Cultural Property): Gabled pantile roof Kamaya (cooking fire room): Gabled pantile roof with monitor roof Furo and Benjo (bathroom and restroom) : Gabled pantile roof Mise : Gabled pantile roof, lean-to pantile roof attached on the south Bunkogura : Gabled pantile roof, lean-to pantile roof attached to Kuramae (front room) on the east and lean-to copper plate roof attached to the east Higashidozō : Gabled pantile roof, lean-to pantile roof attached on the north Kitadozō : Gabled pantile roof
10	Dimensions (building area/ longitudinal length of purlins/length of transverse beams/ridge height)	Omoya Main part : 242.038 m <sup>2</sup> /17.831m/13.574m/10.614m Shikidai (entrance room with steps) : 3.332 m <sup>2</sup> /0.909m/3.666m/4.290m Kamaya : 17.518 m <sup>2</sup> /5.454m/3.212m/4.123m Benjo : 11.466 m <sup>2</sup> /3.984m/2.878m/3.734m Furo : 8.779 m <sup>2</sup> /3.242m/2.708m/3.692m(reconstruction and maintenance area, outside the designated range of Important Cultural Property) Katte : (multifunctional room) : 8.062 m <sup>2</sup> /1.454m/5.545m/4.685m(protruding part to the north, outside the designated range of Important Cultural Property) Mise : 31.222 m <sup>2</sup> /5.777m/5.509m/5.375m Bunkogura : 29.322 m <sup>2</sup> /4.545m/6.593m/6.986m Higashidozō : 47.934 m <sup>2</sup> /8.761m/5.054m/6.884m Kitadozō : 32.233 m <sup>2</sup> /9.090m/3.546m/5.993m Mon and Hei : Gatepost stones/2.724m (height) Outer stone fence/south fence: 5.760m(eastern half) and 30.700m(western half), west fence: 21.030m, north fence: 10.750m Garden fence/8.000m East fence/6.620m(reconstruction and maintenance area, outside the designated range of Important Cultural Property)
11	Outline of work Type of repair Repair period Cost	Omoya, Bunkogura, Higashidozō : Partial disassembly and repair Mise, Kitadozō, Mon, and Hei : Disassembly and repair December 2016~September 2022 (70 months) 1,007,290,750yen
12	Title of Report	Documentation on Preservation and Restoration Work at the Main House and Six other Buildings of the Matsushiro Family Residence, Important Cultural Property Designated by the Japanese Government
	Date of issue	December 31st, 2022
	Authors and editors	Atsushi INABA, Masahiro NISHIZAWA, Nao KATORI (The Japanese Association for Conservation of Architectural Monuments) Satoshi KIMURA (Numazu City Board of Education) Kinjiro SAITO (Associate Prof., Department of Architecture Waseda University, Dr. Eng) Syunsuke HASEGAWA (Cultural Property Protection Association of Tatami)
	Issuer (Publisher)	Numazu City
13	History of repairs	Omoya Main part : 1912~1944, 1945~1984, 1992~1995, 2000, 2002~2004, 2010~2011 Kamaya : 1912~1944, 1945~1984, 1988~2005 Katte, Daidokoro :1992 (rebuilt) Benjo : around 1975, around 2002 Furo: 1992 (demolished) Mise : 1912~1944, 1945~1984, 2002~2003 Bunkogura : around 1882, late Meiji period, around 1975, 2003, 2008 Higashidozō : late Meiji period, 1912~1944, 1945~1984, 2002~2003 Kitadozō : 1912~1944, 1945~1984, 2005 Mon and Hei : 1945~1984, 1999, 2002
14	Notes	Based on the findings of the survey conducted in connection with the repairs, the existing state of each building was changed, and it was rehabilitated to its original form respectively. In addition, seismic retrofitting work was also carried out.